

社地域小中一貫校基本設計が まとまりました！



※社地域小中一貫校完成イメージ図

社地域小中一貫校基本設計については、地域住民、保護者、教職員の代表で構成される社地域小中一貫校開校準備委員会を中心に作成した5つのコンセプトに基づき、令和2年9月から令和3年3月にかけて検討を進めてきました。教職員で構成する「教職員プロジェクトチーム」からいただいた、日常の教育活動に即した専門的な意見と、開校準備委員会の意見を参考に、学校と地域の思いをすり合わせ、「社地域小中一貫校基本設計」がまとまりました。引き続き、基本設計をもとに実施設計（詳細な設計）を進めていきます。

※計画内容については実施設計を進めるにあたり、変更となる可能性もあります。

CONCEPT 1

加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校

4-3-2制に適した教室配置をはじめ、異学年交流スペースを配置した交流棟を中心に、学校全体ににぎわいとつながりが生まれ、学年の垣根をこえた活動を促します。また、各所にワークスペースを設け、主体的に学習できる環境を構築します。

※4-3-2制とは、義務教育の9年間で3つのステージ（1～4年生・5～7年生・8～9年生）に分けた教育活動をいいます。

CONCEPT 2

だれもが楽しく通える安全・安心な学校

登校時と下校時のバスロータリーを分けることで、自動車・自転車・歩行者の混雑を緩和し、児童・生徒の安全に配慮します。職員室は既存校舎西棟1階に配置し、正門・敷地北側・大グラウンドを管理しやすい位置とします。また、小グラウンドや遊具広場にも目が行き届くよう、増築校舎棟南側各階にティーチャーステーションを設けます。死角が出来にくい施設配置とし、必要に応じて、防犯カメラも設置します。

CONCEPT 3

快適でゆとりのある学校

屋外運動場は小学生用と中学生用を整備することで、体格差による事故を防ぎます。やしろののびや遊具広場を整備し、遊びの場を確保することで、児童・生徒がのびのび活動できるようにします。

CONCEPT 4

地域を愛し、地域に愛される学校

地域や学校の歴史・文化を大切に、保護者や地域住民と連携を深めることができる地域交流室を配置します。また、現在の社中学校のデザインを大切にしながら、地域のシンボルとなる施設とします。



施設概要

- 敷地面積 約70,000㎡
- 建築面積 約10,300㎡
- 延床面積 約20,800㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 規模 地上4階建て

災害対策計画について

地震に強い耐震構造の躯体とし、災害時に避難施設として開設できる施設とします。また、大雨時に、雨水を一時的に貯め、下流域に一気に流れ込まないようにする調整池として大小グラウンドを整備し、地域の安全に配慮します。

CONCEPT 5

管理しやすく、使いやすい学校

豊富な掲示や展示ができる使いやすい施設とします。また、既存校舎は長寿命化改修を実施し、増築校舎と同様、将来にわたって長く使える施設とします。

配置計画図



市ホームページで基本設計書（概要版）をご覧ください！
<https://www.city.kato.lg.jp/kakukanogoannai/kodomomiraibu/syoucyuukkankyouikusuishinshitu/yashirosyotyukkankou/index.html>

開校時期について

社地域小中一貫校の開校時期については、これまで令和6年度をめざして計画を進めてきました。しかし、令和元年度に策定した「社地域小中一貫校基本計画」や令和2年度に実施した「設計業者選定のための公募型プロポーザル」において、増築校舎の建設に加え、既存施設の長寿命化改修工事を行う必要があることから、開校時期が課題とされていました。

そこで、工事内容や工程について、令和5年度中に完了する方法はないかと、様々な可能性を含め慎重に検討を重ねてきましたが、工期を短縮することで工事が集中し、騒音、振動、引っ越し、施設の使用制限など、生徒の安全や学習環境に大きな影響を与えることから、開校時期を令和7年度とすることを教育委員会で決定しました。

☎こども未来部小中一貫教育推進室(庁舎4階) 担当:柴崎俊之 ☎43-0562